

令和5年度 第2回君津地区公民館運営審議会 会議録

開催日時 令和5年9月20日（水曜日）午後2時30分から午後4時30分まで

開催場所 周南公民館 講堂 （分散会：講堂・研修室）

議題等 1 君津地区における地域活性化・地域課題の解決に資する社会教育機関としての公民館のあり方について～周南地区の現状と課題について～
2 主要事業の進捗状況について

出席委員 河野清治、吉田俊一、福島義人、佐々木睦、齊藤早苗、原園康寛、後藤吉郎、圓川昭浩
吉原吉一、廣部辰也

欠席委員 増田久美子、大友みどり

出席職員 君津中央公民館 平野館長・唐鎌公民館主事
八重原公民館 山口館長・新井副館長・矢代主任主事
周西公民館 鈴木館長・藤平副館長・三枝副主査
周南公民館 竹内館長・飯泉副館長

公開または非公開の別 公開 ・ 非公開

傍聴者 なし（定員 6名）

1 開会（進行 八重原公民館 新井副館長）

2 委員長あいさつ

3 周南公民館長あいさつ

4 協議

（1）君津地区における地域活性化・地域課題の解決に資する社会教育機関としての公民館のあり方について～周南地区の現状と課題について～

河野委員長

それでは、次第に従い協議に入るところですが、事務局から発言を求められていますので、これを許可します。

新井副館長

第1回の審議会の際に、2年の任期の中で公民館から審議会へ「諮問」し、「答申」を受けることについて、長らくこの形を取ってこなかったこともあり、本来よりも簡素な形で意見を頂きたい旨を説明し、了承を頂きました。

しかしその後事務局で協議するなかで、委員からの答申は重みのあるものであり、久しぶりの答申となれば今後の答申のモデルとなる可能性もあるとのことで、各地区の現状と課題を協議するスタイルは維持しつつ、諮問、答申という形に捕らわれず、2年をかけて「報告」や「提言」など、何らかの結果を残すのが良いのではないかと方向性がでてきました。

そこで本日を含め、今後議論が深まる中で、やはり答申の形としてまとめる方向性が掴めれば、改めて諮問することとしたい、との結論となり、改めて今後の進め方について委員の皆様にはご理解いただきたいと思います。本日も予定通り、周南地区の現状と課題について事務局から説明し、みなさんに協議願います。その際に、あらかじめこちらで指定したグループに分かれていただき、分散協議の形でお願いします。

河野委員長

事務局からの説明が終わりました。何かご質問等はございますか。あくまでも、議論の土台や中身は変えず、まずは「答申」という形にはこだわらないで進める、ということでしたので、このことをみなさんで確認したいと思います。よろしいでしょうか。

-質問無し-

河野委員長

ありがとうございます。それでは次第の4協議の(1)君津地区における地域活性化・地域課題の解決に資する 社会教育機関としての公民館のあり方について「周南地区の現状と課題について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

飯泉副館長

(別紙に基づき説明)

河野委員長

事務局からの説明が終わりました。この後分散協議の場で、周南公民館からの説明に対して、議論していただきますので、この場では事実確認のご質問のみ、お受けしたいと思います。

-質問無し-

河野委員長

特にご質問が無いようですので、これから分散協議に入ります。事務局からの説明ののち、移動をお願い

いします。

●グループ協議（第1グループ）

三枝副主査

この協議の内容は次年度に向けての報告としてまとめていきます。課題に向けて何ができるか明確にするために、ご意見願います。

委員

人口比率が宮下常代で8割なのが驚いた。

委員

周南だけではないが、高齢化や人口減少はやはり喫緊の課題だと思う。特に子どもの利用減少はかなり重要な課題だと思った。子どもたちを地域で育てるために、公民館がどう関われるか、何が出来るかは考えるべき点だと思った。

委員

子ども本人、またその保護者層についてはまだ若く、常代の高齢者層はまだ少ない。アンケートの回答で「地域の活性化や人とのつながり」については、高齢者だけでなく上記のような層が求めているのかもしれないとも思った。

一方で公民館の利用者は70代の高齢者であることから、もう少し分析を進めることでより具体的な課題を見つける必要があると感じた。その上で課題解決にアプローチするような対策を立て、ニーズに沿った解決が計れるのではと思った。

委員

地域の活性化や人との繋がりを求めるということは、それが無い状態を心配していると考えられるのでは。具体的な内容は個々に異なると思われる。例えば10代ならお祭りがやりたい、高齢者なら孤独が不安、など…。

委員

子どもたちの利用は長期休みが主とのことだが、学校帰りの利用はあまり無いと聞いて驚いた。日常から利用する場所であれば、地域の遊び場のひとつとして身近になると思った。

三枝副主査

周南小に通う子どもたちの大多数にとって、公民館のある場所が通学路ではないことが大きい。また、コロナ禍の影響で公民館に気軽に立ち寄るという習慣自体が薄れてしまったというのもあると思う。安心して公民館に寄り道してから帰ることのできる事業や体制作りが必要かもしれない。

委員

地域のイベントの中に子どもが集まれる場があるとよいと思う。以前、杵師のお祭りで子どもがかなり集まっていた。地区文化祭でも子どもが楽しめるような発表があったらいいと思う。

委員

コロナ禍の影響で、子どもたちが地域とふれあう機会が少ないという意見は多くあった。少しずつコロナの影響が少なくなり、子どもたちはイベントや祭りを楽しみにしていると思う。例えば高齢者と子どもが交流できるような企画を立てるといのはどうだろうか。

委員

子どもが日常的に公民館に行けるような仕掛けがあった方がいいと思う。子ども自身もコロナで色々制限がかかってしまい寂しい思いをしているため、お祭り等のイベントが出来れば楽しめると思う。

委員

以前は地区ごとに文化祭の出し物を作ったりもした。過去に行っていたことを参考に、地域を盛り上げるのも手だと思う。

委員

学校ともっと綿密に連携して色々やってみても良いと思う。公民館でやるだけでなく、例えば小学校、中学校でやれるような事業があってもいいのでは。

委員

住んでいる人からすると地域の魅力は分かりにくい。特に自然環境はやはり強い魅力。魅力発信を地域外に進めてみるのもひとつかもしれない。

委員

グラウンドゴルフ場は国際的にも有名なコースだが、地域の人はあまり気がついていないかもしれない。

委員

外の人に周南を評価してもらい、それを発信するのはどうか。

委員

1つの事業で子どもだけ、高齢者だけというのはもう厳しいのかもしれない。複数の要素や対象を掛け合わせるという考えを検討してはどうか。働いている人でも来られるような、平日昼間以外の事業実施を検討してほしい。また例えば「自分磨きのため」であればフィットネスジムに行く人もいると思う。「自分以外のため」に活躍できる事業があれば、少しでも自己肯定感が高められるし、公民館に来る層がいると思う。

●グループ協議（第2グループ）

委員

サークル数が減少していて高齢化が進んでいる。また周西公民館は周南公民館と同様に子どもの利用が少ない。学校から遠いという立地のせい、少子化のせいなのかわからないが、あまり見かけない。

サークルが50団体近くあるが、60パーセント程度しか文化祭に参加しない。地区に高齢者が多くいるので、文化祭を活用してサークルのPRをするなどして、サークル活動を活性化できれば良いと思う。

委員

周南在住だが、公民館と地域住民との連携が上手くいっていないのでは。コロナの影響もあり、社会全体がそういった状況なのだと思う。個人プレーが多い社会になってきたように感じているので、これからの時代の中で社会教育はより重要になっていると思う。社会教育として地域全体を見ていく視点が必要。

委員

内容的な部分で引きつけていかないといけないと思う。地域な魅力をもっと発掘して、結びつけていく企画が必要。

委員

報告の中で子どもたちとお年寄りと二分化されているとあったが、それぞれが考えていることが違うと思う。子どもたちに意見を聞いて、興味があることを取り組んでどうか。次の世代を集めるには、子どもたちが上手く利用できるような工夫必要。周南公民館は人口密集地から離れていて立地が良くないので、高齢者と若者の視点は分けて考えなければいけないと思う。

布施副課長

周南地区は住宅地と自然の両方が共存している。在住されている委員から周南地区の魅力をご紹介いただけないだろうか。

委員

住宅地はあるが山間部は若い人たちが出ていってしまう状況。住宅地は学校と社会教育のマッチングができるのでは。山間部は自然豊かなので、君津地区の他の地域には無い魅力。公民館は裏山もある。対象者によって見方がいろいろあると思う。

布施副課長

外からの視点で、その他の委員から見た周南の魅力はどのように感じているか？

委員

竹灯籠のイベントが良かった。ああいったものを観光目的の方に向けてアピールするのも良いのでは。

周南は観光利用の方が通るので、地域活性化に活用してはどうか。周南の良いところがあるはずなので、そこを上手く宣伝できれば、みんな盛り上がって集まってくれると思う。

委員

周南公民館には裏山があるので、他の地区の子供たちを連れてきてキャンプをするなどして交流してみても良いと思う。

委員

公民館同士の交流を考えていくのも良いと思う。外の人を呼び込むことで地域の人も地域の魅力を再発見できると思う。

委員

猪が問題になっている話があったが、そのお肉をジビエで売るとかどうか。

布施副課長

公民館が直接売るとかではなく、地元の食材を使ったメニュー開発を子供達と手がけるというのはありではないか。周南地区では新旧住民の交流は行われているのか？

委員

日鉄の関係で北海道や九州から多くの方が来られた。そのときの公民館は新旧住民の交流の立役者だった。

委員

自分達が作ったものを見てもらえるのはモチベーションになるので、他の地域から人が来てもらえるのは良いですね。文化祭を行うのはモチベーションのためだと思う。

布施副課長

周南にしかない特徴は？

飯泉副館長

施設であれば弓道やゲートボール場がある。地域活動員と一緒にふるさと運動をしている。その中でスポーツ大会を行なっている。

委員

いろいろなことをしているので伝わるようにPRを工夫した方が良い。

委員

子供たちの利用が少なくなってきたということだったが、コロナで3年間公民館に来られず、この

間、子どもたちが公民館を支えるという意識がなくなってしまったと思うので、どのように使えるかアピールをしていかなければと思う。また、公民館にやって欲しいことを学校に聞いても良いと思う。例えば授業のボランティアで来てもらうという方法もある。

布施副課長

元周南公民館の職員の矢代さんの意見は？

矢代主任主事

私がいた頃はコロナ前だったので、公民館と自治会、学校、保育園などがつながる機会がたくさんあったが今は断たれている状況だと思う。周南は地域と繋がって実施した事業がたくさんあるので、それらの積み重ねを活用したものを活用して外に発信してはどうか？外の人に周南のことを評価してもらうことで、改めて地域の人が自分達の地域の良さに気づくきっかけになるのではないか。今まで公民館と地域の方と積み重ねて来たものを活かしながら、今の形にあったものを考えていくことはできるかと思う。

布施副課長

いろいろなご意見をいただいた。これらを現実的にどのように回していくかということが今後、絞り込みをしていく作業が出てくると思う。継続して発展していけることを考えていきたいと思う。

●グループ協議（第3グループ）

平野館長

アンケートの結果は公民館の実態が見えにくく、認識の差があり、使ったことのない人が8割という少しネガティブなものであったが、公民館につながる事ができれば、学びやつながり、得られるものがあるという意見もある。公民館で待つのではなく、来る人のエリアが限られることも多いので、出張してのイベントを考えていってもよいと考えている。

委員

常代は自治会の加入率が低く、社宅など自治会に加入していない人は館報を見ることができていない。紙以外にも日常的な発信のためのツールがあるといいのでは。Facebook ページをつくったのは良いが、現在「いいね」が8件。また facebook ページという方法も今の時代に合っているのか疑問。

委員

アプローチ、活動が現状に即していない。公民館の周知方法が20年前と変わっていない。今の時代に対してどうしていくかを示せていない。まずは、最小ではなく、最大公約数を意識した取り組みから、未来に対することを一緒に考えていきたい。

今後取り組んで行きたいこととして、青少年健全育成などの活動にも子どもの意見を反映したり、周南公民館で学生の学び合いの場を週1で作っていく方向で動いている。大学生に進路について尋ねたり、異年齢の学生同士の交流ができるよう画策している。木更津には学生たちの学び合いを中心としてコミ

ユニケーションの場がある。

委員

周南公民館のアンケートの対象者は限られているとのことだったが、子どもたちの意見を取り入れた活動も大事だと思うので、地域の青少年相談員などもうまく使って、取り組めるといいと思う。

笹本副館長

公民館がすべてを担うことはできないので、客層をしぼるという選択肢もあるかと思う。

竹内館長

ソフトボール大会をモルック大会に切り替えるなど公民館側も参加者層を広げるための工夫はいろいろ図ってきている。50周年の事前準備など地域と連携して取り組んで行きたい。

唐鎌公民館主事

公民館の発信力の向上という話があったが、もちろんデジタルを活用した情報発信はどんどんやっていきながら、ただデジタル情報を発信しても情報過多の時代効果は薄いので、口コミも広げられるような取り組みが必要だと思う。対象者を絞るという話もあったが、年齢で対象を区切るということを君津の公民館はずっとやってきて、行き詰まりを感じているところがある。先ほど飯泉副館長の周南公民館の現状と課題の報告にもあったように、あえて対象を区切らないという考え方もあるのでは。

委員

諮問答申にまとめるというより、とにかくデジタルの可能性をもっと模索してみる必要があると思う。デジタルを活用した発信、議論の場づくりなどがあまりに弱い。eスポーツ、Zoomの講演などデジタルの部分もチャレンジしてほしい。私自身の取り組みとして、学生の交流の場づくりのため、周南公民館への公共交通機関のアクセスが悪いので、県の補助金の活用も検討している。

●各グループの意見発表

河野委員長

それでは、皆さん揃いましたので、それぞれの協議概要を第1グループから順に、報告をお願いします。

新井副館長

第一グループでは次のような意見が出されました。

アンケート結果で「地域活性化や人との繋がり」の回答が多かったということは、高齢者だけではなく若年層も求めている。引き続き分析を続け、ニーズに沿った対策をお願いしたい。

子どもたちが日常的に集まる仕掛け作りが必要。公民館が出かけていく視点を持って事業を計画してはどうか。子どもたちが楽しめるお祭りやイベントは他地区でも盛況である。こういった場を設けるこ

とで、高齢者と子どもたちが触れ合える機会が提供できる。地域に住んでいる人たちが気づいていない魅力が周南には多くあると思う。現役世代の人に来てもらうには、平日昼間以外の時間に事業を開催するなど工夫が必要。自分以外のために貢献できる企画があると良いかもしれない。以上です。

矢代主任主事

第二グループでは次のような意見が出ました。

周南の土地が持つ魅力は、自然が豊か、ほどよく市街地が近い、地域の繋がりが強いこと。

コロナ禍で子どもが来る習慣が無くなったとのことだったので、また公民館に来てもらえるようにして欲しい。世代間で考えていることが違うので、今の子どもたちが参加してみたいと思う内容を取り組む必要があると感じた。周南は観光の要所でもあり、外の人目線でも考えるのも良いと思う。地元の良さを再発見するためにも、外の視点はあって良いと思う。以上です。

笹本副館長

第三グループでは、次のような意見が出ました。

公民館の周知の方法が今の時代にマッチしていない。SNSは利用しているがあまり伸びがない。アンケートの回収率があまり良くない。デジタル化をもっと進めていって良いのではないかという意見もありました。以上です。

河野委員長

各グループからの報告がありましたが、ご意見・ご質問等ありますでしょうか。

-意見無し-

河野委員長

特に出ませんでしたので、これで質疑は終了といたします。長時間にわたる協議、ありがとうございました。次に協議の2 主要事業の進捗状況について 事務局より説明をお願いします。

(2) 主要事業の実施状況について

新井副館長

本日の資料に、各館の主要事業についての、現在までの経過をお示ししてあります。恐れ入りますが、説明は省略し、文書報告とさせていただきます。後ほど、委員各位でお読みくださるよう、お願いいたします。

5 その他

新井副館長

グループ協議では有意義な意見をたくさんいただきました。アウトプットをしっかりとるよう事務局へ宿題もありました。今後事務局内で検討していくので、ご承知いただきたい。

佐々木委員

予約システムについて。中央公民館と他公民館について、抽選申込み時期等がバラバラであり、やり方を統一できないだろうか。システムそのものを変更することはできないため、できる範囲とできない範囲があるのは承知しているが。

新井副館長

すべてを統一することは難しいですが、できる範囲については統一していきたいとは考えています。運用が始まったばかりであり、頻繁に変更するのも利用者に混乱を生じさせるため、変えるべき点は変えていきたいですが、よく検討していきたい。

圓川委員

公民館の主たる目的として「利用者の増加」はあるのか確認したい。

新井副館長

もちろん数が重要なデータなのは間違いないが、それと同時に満足度も重要であると考えます。利用者数も今までに戻しつつ、満足度も満たしていくような内容を検討していきたい。

圓川委員

利用者増加を目的とするならば年4回では議論等のスピードが遅すぎると思ってしまう。常にニーズとずれてしまう問題があると思う。デジタル化を取り入れて、会議の活発化を検討してほしい。

河野委員長

よろしいでしょうか？ほかに質問がなければ、事務局から 事務連絡等 お願いします。

新井副館長

(資料により説明)

河野委員長

それでは、皆様からも特になければ、本日の協議事項は全て終了しましたので、以上を持ちまして、令和5年度 第2回 君津地区公民館運営審議会を終了いたします。お疲れ様でございました。